

新劇界のスーパーstar [草野大悟] のこと (その2)

玉龍高校8回卒
中間一範

＝柿落し「本多劇場」への出演＝

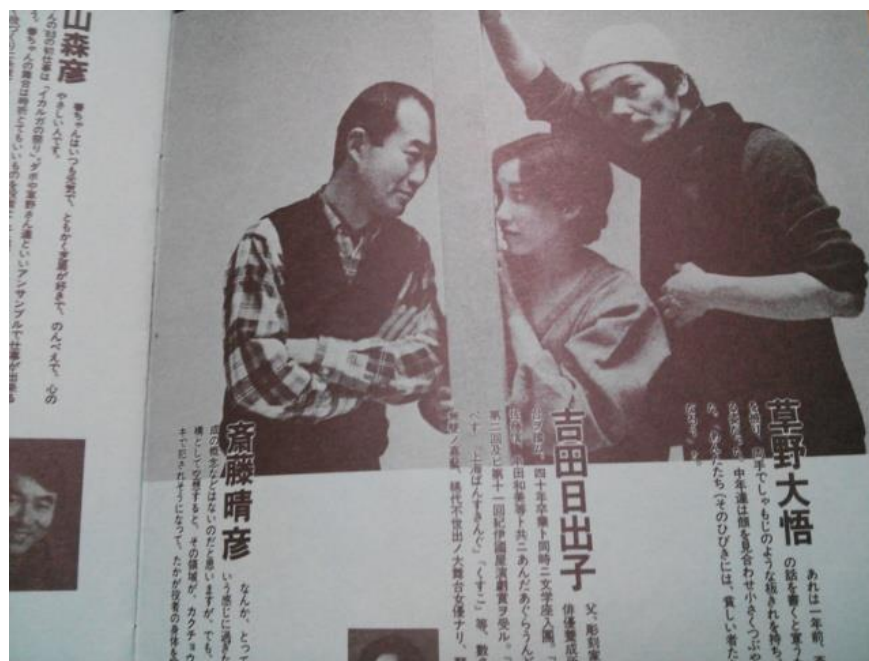
1983年1月、東京・下北沢「本多劇場」の柿落し第三弾として上演された『イカルガの祭り』作・演＝齋藤憐／出＝吉田日出子・草野大吾他を西山君と私は観に行った。

古代史劇「大化の改新」前後に活躍した、蘇我の一族と天皇家の人々の葛藤、それを操る藤原鎌足の野望・政治と人間の相克を描くとあり、主演とヒロインだった草野大悟と吉田日出子の演技が素晴らしく、この舞台には言葉がいらぬほど大変感動した。(チラシには1983年1月～31日開演、入場料2,500円、全席指定とあった)

舞台を終えると、草野君は当劇場近くの居酒屋へ出演者合同の御苦労会に招き入れ、看板女優吉田日出子姉へ西山君と私を気安く紹介してくれ、恐縮するやら感激するやらのひと時を過ごした。

他に草野君は、当劇場へは1983年に『グレイクリスマス』作＝齋藤憐／演＝栗山民也／出＝渡辺美佐子・草野大悟他、1986年に空間演技『團十郎と音二郎』作・演＝岡部耕大／出＝草野大悟・小野武彦他の出演がある。

本多劇場＝東京都世田谷区北沢二丁目10-15にある演劇専用の民営劇場である。
客席は1フロア、客席数は386席。



〔演目〕イカルガの祭り

＝作文を添えて準備に協力＝

昭和60年11月30日(土)、我ら8回卒は、関東玉龍同窓会が発足して5年目という記念すべき節目の年に当たり、第三回関東玉龍同窓会総会を芳しき明治記念館で開催する運びとなった。

総会の実行委員会(幹事代表 吉 誠)では、この日のために早くから準備にとりかかり、NHK「落つくし」の後番組「いちばん太鼓」に出演中の草野大悟も実行委員の一人として、この番組撮影の合間をぬって準備に協力、周囲の強い要望で総合司会を担当してくれた。さらにその合間に、これまたフジテレビ「いただきます」にレギュラー出演の重田千穂子(26回卒)と先輩と後輩コンビが純粋鹿兒島弁による寸劇(夫婦げんか)を演じてくれたことが懐かしい。

また、草野君は、本総会の集いに込める作文を用意してくれたこと、彼独特の風味ある言葉の操り様が随所に記され大いなる人柄が偲ばれる。(下にその作文を示す)

真夏日の連続記録とうちたた立派な夏が行、
 フシギで嘘のように秋がこぎまわります。
 エメラルドグリーンの新緑香もあふく頃、南東
 玉龍同窓会も皆様がお揃いになりました。地球
 地球上におよそ四十七億程の人々がおりまわ
 極く極く、極く一部の人間だけが、地域だか
 とも地何らかの理由で、あの、名門、玉龍
 同窓生、こぼけすに宇宙的確率の合縁三訂縁と
 言えるほどに集まることがある。
 さて、昭和六十年(今年まであります)は、才三回「南東玉龍
 同窓会総会」開催の年であります。
 二年に一度、奇しき縁に結ばれた人々、赤糸とたぐり寄せ
 るべく総会実行委員という難役とふりあこがれた我々
 八回卒(昭和五十五年)メンバーは、イベント企画の群青
 ゆえ風章狼狽のち七転八転して妙案奇案をひね
 り出しこぼれたもの、うまさやんす、しばし拱手傍観。
 結果、諸先輩の高論卓説と得まして「再び奮
 立ち、今ここに我々八回卒は獅子奮迅のさみいで
 時と運の場所と定めて同窓会名簿の作成を完了し、
 皇業一現のひととき、才三回「南東玉龍同窓会総会」
 の準備を終了し、ここに案内状と名簿を送る次第で
 準備は完了です。
 準備は完了した頃、あまは日産不足街でした
 今、夜ふるとか、あややこやや、煩悶とさながらに
 昔に耐えつた、語らうとありませんか。

才三回 総会実行委員
 佐々 十早 野 不 悟

一 関東玉龍同窓会総会の開催経緯一

我ら 8 回卒で開催した第三回関東玉龍同窓会総会実施(1985 年)までの経緯を顧みると、東京在住同窓者の集まりの一つである「福の会」(第 4 回卒)の有志の呼びかけに端を発し、旧市立中を含めて第 1・2 回卒を頂点にした実行委員の基に関東玉龍同窓会の結成式(昭和 55 年 4 月 出席者約 60 名地元から校長、加治屋克己議員など)が執り行われ、関東玉龍同窓会設立の賛同を得て、同時に会長に有馬正人氏(第 1 回卒) 事務局長に有満徹男(第 1 回卒) 他役員 8 名を選出し、学年幹事の情報収集、会則を規定して正式に発足した。



〈第三回関東玉龍同窓会総会を成功に導いた 8 回卒のメンバー〉

そして、およそ 1 年余りの準備期間を経て、第一回関東玉龍同窓会総会開催(昭和 56 年 7 月 会員約 250 名出席 実行委員第 6 回卒)、第二回関東玉龍同窓会総会開催(昭和 58 年 7 月 会員約 350 名出席 実行委員第 7 回卒)の後、我ら 8 回卒が第三回関東玉龍同窓会総会を引き継いだ。

早速実行委員のメンバーを編成し、代表幹事 吉 誠、必要目標を定めたスケジュール表を堀添智、広告収入等財政面を稲森浩一、会計を中間一範、有志による学年名簿の収集拡充・必要事項要所での

応援、草野大悟君の思いを込めた自作文での営業面のフォロー、これら諸兄諸姉の努力で諸々の問題を克服し、有馬会長統率のもと、案内状・名簿の発送にこぎつけ、開催日（昭和60年11月 会員約400名出席）が実行された。

ここに於て漸く、我ら8回卒の大きな結集力で関東玉龍同窓会発展の基盤が出来上がり、以降隔年毎の総会開催が確立し今日に至っている。

＝草野大悟の出演作品数＝

約30年余の俳優業での出演作品のジャンルと出演数を調べてみると、下記に示す通り、幅広い分野での活動、これら役どころの鋭い観察力、決して役者ぶらないで素朴に素直に演じたその凄さ、迫力は並みではない残された作品が特筆され、享年51歳で余りにも早かったその生涯を閉じたこと、このうえもなく惜しい限りである。毎年多岐の劇場で各演目をこなしていることに感心する。

- ・テレビドラマ 82 (数)
- ・映画 47
- ・舞台 60
- ・吹き替え 4
- ・ラジオでの語り 1
- ・ラジオドラマ 2
- ・その他(写真シリーズ) 2
- ・著書 2

(これらの詳細については、ネット上に公開されているので、ここでは割愛します。)

＝もらった芝居のお知らせ＝

草野君自らの手でお知らせ文を作成していた。自身の営業活動の一端が垣間見えて何とも微笑ましい。

くたさる。	でも面白い。おもしろいですよ。	草野大悟。
「上海パンネキング」	昭和11年→昭和20年	2.26事件から敗戦まで
「バレスキイグー」	昭和6年→昭和11年	5.15事件から2.26事件まで
「黄金のポードル」	昭和3年→昭和7年	3.15事件から5.15事件まで
「けこまました。例えはとけと時代劇に近べこみます。」		
「浜村純さん 斎藤晴彦さん 野武喜彦さん等と一緒に」		
「す。作者の斎藤晴彦は二十まで昭和の歴史を書き続けた来ました。例えはとけと時代劇に近べこみます。」		
「観劇のお知らせです。古沢中村、イカルが八回卒の草野大悟です。また芝居を祭りに来、一年ぶりに下北沢の本多劇場でまた芝居をやることにやりました。渡辺美佐子さん 佐藤英夫さん 斎藤晴彦さん 野武喜彦さん等と一緒に」		
「グレイクリスマス」	昭和20年→昭和25年	敗戦から朝鮮戦争まで
「とんぼの芝居を書きました。今回は敗戦と占領によって180度方向が変った日本と占領軍による民主化政策のノート。アから再び180度方向を変えた時代の日本と、どういふ事が喜劇にしたようとしたものです。」		
「小生が44年。戦争を企てた頃にはまだ朝鮮戦争多と経て昭和33年 売春防止法が日本中の因縁と悲しくさせながら強行された。草野大悟は王立学院の卒業生でした。毎年首を絞るとお騒がせしてあります。何卒お騒がせしないで下さい。」		

＝盛大だった出版記念パーティ＝

1980年6月12日 小田急ハルクで開いた著書「同志!! 僕に冷たいビールをくれ 講談社」の出版を祝う会には、勝新太郎、岸田森、佐藤慶、浜田光男、藤村有宏、吉田日出子、藤田弓子、樹木希林の顔々、こちら出席した八回卒男女を交えて和気あいあい、勝新太郎が気安く写真に加わるなど、それはそれは楽しいひと時を過ごすことが出来て、時間の経つのも忘れて感激あめあられであった。

なお、草野君へは、八回卒有志より、ネーム入りの原稿用紙とモンブランの万年筆を記念贈呈した。



〈壇上には愛息 麦平君の姿が見える〉

＝予期しない突然の訃報＝

1991年2月27日、訃報を聞きつけ早速、西山君と私は烏山の自宅に駆けつけると、後に【日本アカデミー賞】最優秀助演男優賞を歴代最年長（87歳）で初受賞された民芸代表の大滝秀治（14歳年上 2012年10月2日87歳で没）さんが、枕元に悼み悲しみの体で座しておられた。

ここに大滝秀治との、そして生前に草野君の出演に観客として姿もあり、自身が一目おいていた太地喜和子（4歳年下 1992年10月13日に48歳で不慮の水死事故で没）との共演作品を列挙してみると、共にテレビ、映画、舞台にその名がある。

大滝秀治との共演

*大河ドラマ 花神 原作：司馬遼太郎 制作：NHK

放映 1977年（全25回）

出演 村田蔵六→大村益次郎/4 中村梅之助

お琴/加賀まりこ 吉田寅次郎→吉田松陰/篠田三郎高 杉晋作/中村雅俊

河井継之助/高橋英樹 イネ（楠本いね）/浅丘ルリ子 天堂晋助/田中健

久坂義助（玄瑞）/志垣太郎 お雅/岡江久美子 おうの/秋吉久美子 お里/大竹しのぶ

緒方洪庵/宇野重吉 周布政之助/田村高廣 山県狂介/西田敏行 伊藤俊輔/尾藤イサオ

井上聞多/東野英心 桂小五郎/米倉斉加年 幾松→松子/波乃久里子 佐久間象山/南原

宏治 二宮敬作/大滝秀治 沼崎吉五郎/草野大悟（草野大吾）

*大日本スリ集団 作：藤本義一 監督：福田純

公開 1969年

出演 小林桂樹、三木のり平、酒井和歌子、吉行和子、高橋紀子、田中邦衛、寺田農、砂塚秀夫、古今亭志ん朝、稲野和子、大滝秀治、草野大悟、菅井きん、清水将夫、うえずみのる、波田野憲、下條正巳、佐田豊、伊藤豪、水谷貞

*『野獣都市』（やじゅうとし）は、大藪春彦のハードボイルド小説 監督：福田純

公開 1970年

出演 有間靖浩/黒沢年男 石浜雄作/三國連太郎 その娘・美津子/高橋紀子

金森忠義/北竜二 市原/清水将夫 その息子・信之/伊藤孝雄

花谷/大滝秀治 藤松/草野大悟 丹羽/青木義朗

岩野/小松方正 その娘・みゆき/岡田可愛 石浜家の女中/菅井きん

*『桜の代紋』 監督：三隅研次

公開 1973年

出演 若山富三郎、渡辺文雄、関口宏、松尾嘉代、大滝秀治、草野大悟 他

*夏の盛りの蝉のように 作：吉永仁郎

公演 1990年～1998年 サンシャイン劇場、地方公演

出演：加藤剛、高橋長英、大滝秀治、草野大悟、范文雀、他

太地喜和子との共演

*『座頭市物語』第4話「縛られ観音ゆきずり旅」

放映 1974年

監督：三隅研次 音楽：富田勲 制作：勝プロ／フジテレビ

出演 座頭市／勝新太郎

お駒／太地喜和子 木俣の久六／草野大悟 どんでん半次／和田浩治

堂守の喜助／藤原釜足 あや／植条左洋子 下倉仙十郎／峰岸隆之介

橋部の勘五郎／須賀不二男 妙見の新八／山本一郎 助川の吉兵衛／小田部通磨

*『触角』 監督・脚本：新藤兼人

公開 1970年6月3日に日本で公開された映画。

出演 石川民子→娼婦ユキ／乙羽信子 利夫／大丸二郎

八重／太地喜和子 大国／草野大悟

ナガル氏／観世栄夫 海坊主／殿山泰司

*裸の十九才 監督：新藤兼人

公開 1970年

出演：原田大二郎、乙羽信子、太地喜和子、草野大悟、鳥居恵子、巖波郎、佐藤慶、吉岡ゆり、佐藤慶、渡辺文雄、殿山泰司、河原崎長一郎、観世栄夫、小松方正、戸浦六宏

*「父」木下恵介監督最後の劇映画。

公開 1988年

板東英二 太地喜和子 草野大悟 芦屋小雁 菅井きん 野々村真

*越後つついし親不知 作 水上勉 演出 今井正

公演 1974年7月18日(木)～1974年8月3日(土) 会場 西武劇場

出演 中村賀津雄、太地喜和子、草野大悟 他

＝最後のお別れ＝

告別式が執り行われた幡ヶ谷の斎場には、北見先生、西山君、私、他北見会の有志が参列して見送り、俳優業の世界で美しい足跡を残し、ありし日の数々の思い出が脳裏に浮かび名優とは最後のお別れとなった。荼毘に付された後、妻 田島和子さんの手で郷里鹿兒島の墓地に納骨され、思いもかけない人生の展開に感わせず、我ら八期会をあの眼差しで見守り、日々何を語りかけているのだろうか。

＝企画された故人の一人舞台＝

没後1991年5月 草野大悟君の最後の一人舞台を観るために本多劇場に集まるべく、六月劇場で発起された案内があり、案内には「今日も酒場で主役を演じ続けていて、最後に拍手をもって幕を下ろしたいのです」とあった。

とき●五月二十六日(日)

●本 会 本多劇場
〒田舎区北沢2-10-15 ☎03-3468-0030
午後七時より／会費三、〇〇〇円

●二次会 鈴なり恋番館
(田舎区北沢1-45-15 ☎03-3460-8610)
午後九時より／会費三、〇〇〇円

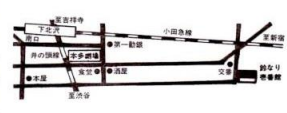
〒東京都渋谷区神山町七-十五
ホワイトハイム二〇三
六月 劇場
草野和子

草野大悟が逝ったのは、春近き冬の頃、今、桜の花も散り、新緑の初夏、一つの季節が過ぎました。

今日も酒場で、草野大悟は主役を演じ続けています。

人は、草野大悟の最後の一人舞台を観るために、本多劇場に集まることにしたので、そして最後に拍手をもって幕を下ろしたいのです。

享年五十一歳 口惜し過ぎる幕



草野大悟が急逝いたしましたから、はや一筆に
なろうとしております。

この前、日様のあたたかな御厚情を賜わり
まして、私たちが遺族も心の痛まからう、少しづつ
びばあります。が、立ち直ることができました。
深く御礼申し上げます。

私どもは、日様からの追悼文で「思ふと
題する本を作るに、つもりでございまして、かゝる
後、遺品と整理して、おりましたところ、大悟
が生前、ノートに書きしるしたものと、ヤメ毛類が
みつかりました。日本文社からの、おすめもあり、
大悟の文立身とメモで、「大悟の本」と、愈々うと
いうことになりました。少ない、資料ではございまし
たが、日様御協力、御協力により、やうと、ミニに
出来上りました。

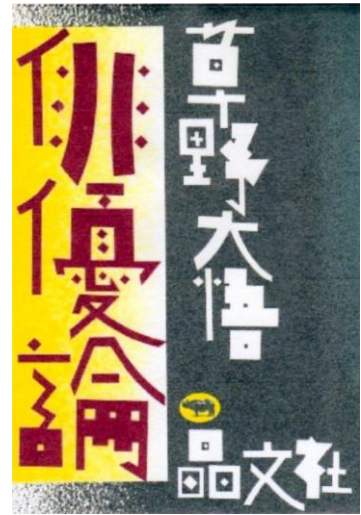
生前発表されました文立身と、残されたメモ類
だけというよりは、大悟にとりまして、無念なであら
うとは思いますが、どうぞ、ここから、俳優草野大
悟を、思い描いて、やうと、下さいます。

なお、お慰めとお願いたしました。半野甲斐、
又、石橋蓮司、樹木希林、斎藤晴彦、
は、御協力を、おいただきました。心より御礼申し
上げます。

私たちが、淋しく、ございしますが、心の中の大悟と共に
新しい人生を、しっかりと生きてゆこうと思ひます。
どうぞ、これからもよろしく、お願い申し上げます。

最後に、下悟にかけて、下さりました、かけぬ、の、い
たくさんの、友情に、感謝いたします。
ほんとうに、ありとうございしました。

草野和子



出版記念会のお知らせ

御周知の事実により、著作者本人の臨席はかありませんが、次のとおり、草野大悟著『俳優論』（品文社版）の出版記念会を開きたいと考えます。

記

■日時・一九九二年二月二十七日(木)

／午後六時〇〇分より八時〇〇分まで。

■会場・新宿、東京大飯店（地図参照）。

■会費・五〇〇〇円。

一九九二年一月三〇日

『俳優論』出版記念会発起人一同

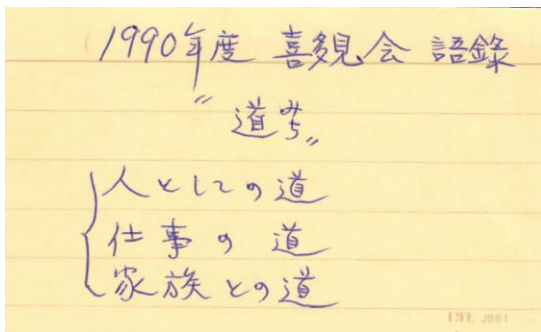
＝北見会の思い出＝

東京から玉龍ヘスカウトされた1組担任の北見先生がご結婚間もない「かごまおごじょ」を伴侶に戻られ、当時白鷗高校で教鞭をとられている折り、草野君、西山君、私の3人で練馬の住まいをお訪ねして再会が叶い、夜半におしかけたにもかかわらず歓迎して頂いた。

これを契機に、北見先生を囲む会「北見会 後に喜多見会」と称して、在京1組を原則とする有志メンバー（稲森、草野、竹之内、西山、村上〈旧姓前田〉、満留、柴田、吉、中間、それに在京外勤務で出席がままならなかった海江田）で自然的に発足し、年1～2回は開こうと幹事役を仰せつかった。

草野君も俳優業のかたわら顔を出してくれて、面白おかしく世の人間模様を語り、先生も出席されると誰彼我々の話に興味深々で、この会は話題が高尚で質が濃いとよく口にされ、いつの日か「北見会のスローガン」の話が持ち上がり、先生は考えるもなく「1点確保の全面展開→転回〈意を同じくして可〉なるお言葉を頂き、皆感じ入って盛り上がり、それにある時々では、さりげなくカードに人生訓なる言葉を記されることがあり、それが私のメモ類保管箱から、「道」、そして「ヨハネ伝のことば」の二つが見つかり、明快なコメントが付いて楽しく過ごしたことがとても懐かしい。

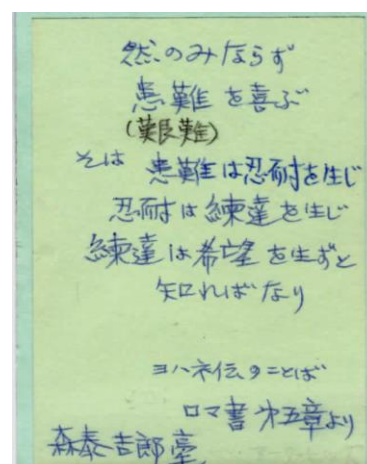
なお、この間先生は、文学博士の学位を授与され、我々一同よりネーム入りの原稿用紙とモンブランの万年筆をお祝いに進呈し、これで一層の弾みがつくと大いに喜ばれたことが思われる。



〈北見先生を囲んで草野君の珍しいスーツ姿〉



〈ありし日に集う北見会のメンバー〉



=むすびに=

今年(2016年)5月のある日に西山君からメールを受け、年初めから名優 [草野大悟] のことを考え、在りし日を偲んで過ごしたことを書き始めているが、どうも中途半端な気がしていて、私にも何か書きたいことがあるのでは?との打診があり、添付された記述内容を見て、遡る思い出の記憶力にびっくり、こちらは記憶が薄いところで思い出すことを何点か取り上げて返すと、それらを膨らませて書いてとの要望があった。

早速、未整理のメモ類保管箱をチェック、草野君からもらった貴重な芝居に関する手紙などが見付き、これらを題材にして思い出す限りを綴った拙文を創案追加で返したら、この草野大悟のことは2本立てで行こうという話になった。

ここに記述等で振り返るありし日の思い出諸々、西山君の内容と私の内容を併せてみると、その時、その時の消えつつあった出来ごとが見事に蘇ってくるのに手前味噌ながら感も新たである。

改めて、日本の演劇界にあって、異色ともいえるキャラクターであり、ひょうひょうとした持ち味が玄人受けした演技の真実を追い続け、まだまだこれからというときに、早すぎた死を悼む人は多かった。重厚にしていぶし銀のごとき役者が惜しまれつつこの世を去った [草野大悟] のことを偲ぶ思いで、ここに綴ったその1、その2の記述双方に重複する部分も若干ある点ご容赦ください。

了